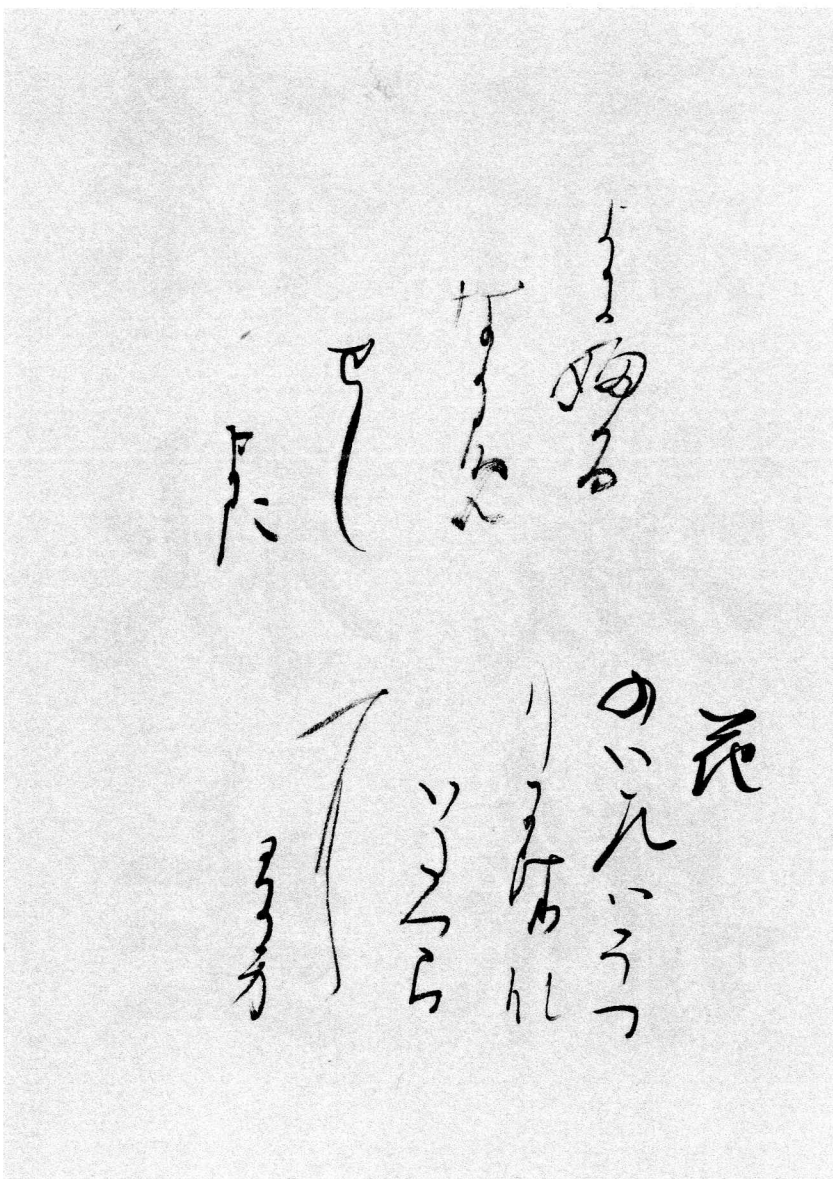


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (八)

花の色は移りにけりないたづらに わが身世にふるながめせし間に

小野小町



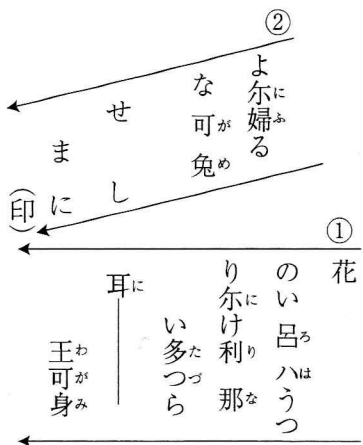
〈歌意〉

「桜の花はすっかり色あせてしまったなあ。そして、私の容色（容姿）も衰えてしまったよ。春の長雨が降り、物思いにふけっている間に」この歌は『古今集』（春・一一三番）に出ています。

（小野小町）

生没年未詳。平安女流歌人。六歌仙の一人。伝説化されている絶世の美女。

〈字母〉



中村素堂先生の書

大島香菊様提供

同じ歌でも書く度に散らし方が違い、いかようにでも変幻自在に散らせられる、何とも言いようのない魅力を感じてしまいます。

（中村青藍）